

したもんだ。わしは貴下を立派な國家の法律の柱石だと思ひますから、其法律を盾に、わしは貴下に言ひます、ずん／＼裁判をなさい。靈魂をかけて誓言します、人間の舌の力ではわしの心を變へさせることは出来ません。是非證書通りに願ひます。

アント

わたくしも切に願ひます、どうか御裁判下されますやうに。

ポオシ

では是非に及ばん。其方の胸へ彼が刃物を受ける準備をせい。……

シヤイ

お、公明正大な裁判官！ 若いに似あはん偉い人だ！

ポオシ

蓋し此證書面に認めてある科料は、法律の意義並びに目的上より見て、十分是認せらるべき性質のものである。……

シヤイ

全く其通り。お、賢明な、公平な裁判官！ まあ／＼お前さんは、見かけよりはすつと／＼老成な偉いお方だ！

ポオシ

それゆゑ、胸元を開け。



Miss Ellen Terry as Portia

シャイ

はい、胸でございます。さう證書に書いてあります。でございます。でございませう。」「すぐ胸元より」と書いてございます。

ボオシ

さやう。…肉の重さを量る秤器はあるか？準備してをります。

ボオシ

シャイロック、其方自辨で外科醫者を呼寄せおけ、傷口をとめんと、出血の爲に命を失ふかも知れんから。

シャイ

そんなことが證書に書いてございますか？書いてはないが、その位の情は、かけるのが當然ぢや。

ボオシ

見附かりませぬ。證書に見えませぬ。商人、何か申し残すことがあるか？

アント

たゞ聊か。覺悟はとうに致してをります。…パッサニオさん、お手を。御機嫌よろしう！ わたしが貴下の爲に斯ういふことになつたからとい

つて、歎いて下さるな。運命の神が、わたしに對しては、まだしも深切にしてくれませう。不幸な人間を零落させて財産に離れさせながら、一思ひに死なせもしないで、額に皺を湛へた凹んだ目で吾と我貧窮を眺め暮させるのが例であるのに、その悲惨だけはまぬがれさせてくれます。どうぞ奥さんへよろしく。アントニオは如何して死んだか、どんなに貴下を愛してゐたか、有體に懇ろにお話しなすつて、奥さんに判斷して貰つて下さい、嘗てパッサニオさんに一人の心友があつたと言へるか如何かを。貴下が親友を失つたと悔んで下されば、わたしは貴下の爲に負債を拂ふのを決して悔みません、其證據には、若し猶人がすつと深く切れば、(笑を含みて) わたしは眞に全心を傾けて拂ふのです。

パッサ

アントニオ、わたしは今現に生命其者程に大切な妻を娶つてゐる。けれども、生命其者も、その妻も、全世界も、わたしに取つては、お前さんの命以

上に貴いものではない。わたしは何もかも棄て、しまふ、みんな犠牲にしてかまはないから、どうかしてお前さんを此惡魔から救ひたいのです。

ポオシ

(獨語のやうに) 若し細君が傍にゐて、さういふことをお前さんが言ふのを聞いてゐたら、餘り有難がりもすまいね。

グレシ

わたしにも妻があつて、それを非常に愛してゐるんだが、いつそ死んで天にゐたら、言傳手をして神様に直訴して、此狼のやうな猶人の心を入替させて貰ふものをなあ!

ネリッサ

(獨語のやうに) さういふことは、細君に聞えない處で言はないと、家庭に風波が起りますよ。

シヤイ

基督教信者の男共は皆如是だ。おれにも一人娘がある。基督教信者を夫に持たす位なら、バラバス(強盜)の血統の者に連添はせたい方が優だ! :

：時間が費えます。どうか御宣告を願ひます。

ボオシ　そこにゐる商人の肉一ポンドは其方の物である。法庭が之を是認して、法律が之を其方に與ふる。

シヤイ　公明正大な裁判官！

ボオシ　すなはち其方みづから手を下して彼が胸元から其肉を切取らねばならんぞ。法律は之を許可し、法庭は之を是認する。

シヤイ　最も博學なる裁判官！……宣告だ！ 覺悟しろ。

ボオシ　ちよと待て。また申すことがある。此證書には、血は只の一滴たりとも其方に與ふると書いてない。明瞭に「肉一ポンド」とのみ記してある。

然る上は、證書面通り肉一ポンドを取り、併しながら若し之を切取るに當つて、基督信者の鮮血を只一滴でも瀉ぐに於いては、其方の地所も家財も、エニスの國法によつて、悉く之をエニスの國庫に沒收いたすぞ。

グレシ　お、公明正大な裁判官！　どうだ、猶人。お、博學なる裁判官！

シヤイ　それが法律でございますか？

ボオシ　自身の目で其條文を見るがよろしい。畢竟其方が一へに嚴重な證書面通りの裁判を申し乞ふが故に、おのれが望み以上の、嚴重な裁判を受けなければならぬのぢやと覺悟をせい。

グレシ　お、博學なる裁判官！　どうだ、猶人。成程博學な裁判官さんだ！

シヤイ　では彼の申出通りにします。證書を三倍にして拂へば、あの基督信者を許してやります。

バッシ　その金はこゝにある。

ボオシ　待て！……猶人はあくまでも法律の明文通りの裁判を要求してゐるのである。待て！　急ぐに及ばん。猶人は科料以外何物をも受取るべきでない。……

グレシ お、猶人！ 公明正大な裁判官、成程博學な裁判官！

ポオシ であるから、肉を切取る準備をせい。血を流してはならんぞ、また肉は丁度一ポンドより以外、多くも少くも切取ることにはならんぞ。若し聊かでも、丁度一ポンド以上又は以下を切取るに於ては、よしそれが、たかが一分又は一厘ほどの軽重であるとも、いや、只髪の毛一筋だけの量目の差を秤皿の上に生ずるに於ては、其方の命は無いぞ、其方の財産は悉く國庫に沒收いたすぞ。

グレシ 今ダニエルさんだ、成程、今ダニエルさんだ！ どうだ、罰當り、降参したらう。

ポオシ なせ猶人は躊躇してゐる？ 科料を取れ。

シヤイ 元金だけを受取つて歸らせて貰ひたい。

パッサ どうから渡さうとしてゐるのぢや。こゝにある。

ポオシ いや、彼は公けの法廷に於てそれを受取らんと申したのである。彼は只

グレシ 法律通り、證書通りの科料の外を受取ることとは相成らん。

シヤイ いよく以てダニエルさんだ、今ダニエルさんだ！ お、猶人、好い言葉

シヤイ 元金だけでも受取れませんか？

ポオシ 其方が受取るものといつては、命がけで切取るべき科料の外には無い。

シヤイ ではうぬ、どうとも勝手にしやあがれ！ もう論判は無益なこつた。

ポオシ 待て、猶人。其方にはまだ法廷の御用がある。エニス市の法律によると、外國人が、直接若しくは間接の方法を以て當エニス市民を殺さうとした場合に、それが露見に及べば、其財産を二分して、被害者にらんとせし者は其一半を取り、他の一半は國庫に沒收する規定である。而うして其犯罪者たる者の一命は、一へに公爵の御仁恕に任せ、何者も之に對して異

議を申し立てることの出来んことになつてゐる。其方の罪状は正にそれに相當する。直接又間接にそれにある商人の命を奪はんと企てたことが明瞭であるから、只今申し聞かせた罪科はまぬがれんぞ。であるから、速かに土下座をして公爵のお慈悲をお願い申せ。

グレン
自分で首を縊つて死ぬ許可でも願ふがい。併し財産は悉く没收されてしまふのだから、繩を買ふだけの餘裕もないだらう。だから、政府の費用で以て首を縊めて貰はんければなるまい。

公爵
吾々の精神の其方と異なることを知らせるために、願を聴くまでもなく、其方が一命は赦してやる。さて財産は、一半はアントニオに取らせ、他の一半は國庫に收める。但し全く悔悟すれば、或は科料だけで差許すかも知れん。

ポオシ
さやう、アントニオの分は格別として、國庫へお收の分はさやういたして

シヤイ
もよろしうございます。

アントニオ
いや、命も何にかも取つて下さい。赦して貰ふには及ばん。家を支へてゐる大柱を取られるのは家を取られるのだ。生活の資本を取られるのは命を取られるのだ。

ポオシ
アントニオ、其方は彼に對して何等かの慈悲を掛けて遣はす氣か？
無料で首縊る繩を一筋。其他に何がやれるものか、あの罰當りに。

グレン
憚りながら公爵閣下をはじめ御列席の方々へ、猶人が財産の一半は科料でお赦しになりますやう願ひます。残る一半は、若し當分の間、手前に預け置きくれますれば満足にござります、右は猶人の死後に至りまして、先頃窃に彼れが女と共に遠國いたしましたロレンゾと申す青年に引渡すこととにいたします。尙別に二ヶ條のお願がござります。すなはち此御仁恵に對して、彼が速かに基督信者に相成るといふこと、次に、死後一切の

財産を女夫婦に譲るといふ證書を此法廷に於て認めまするやうお吩咐を願ひたうございます。

公爵 その通り申し附けやう。もし否むに於ては、只今言ひ渡した赦免をも取消す。

ボオシ 猶人、よろしいか？ どうぢやな？

シヤイ よろしうござい

ます。

ボオシ 書記役、財産讓

渡の證書を。

シヤイ どうかお暇を下

さいまし。病氣

にございます。



公爵 證書は後からお送り下さい、宅で記名いたします。

グレシ 歸つてよろしい、が、命令通りにいたせ。

おい、洗禮を受けるには、立合人が二人要るぞ。だが、若しおれが裁判官であつたら、立合人をもう十人ふやして、貴様を洗禮盤よりも絞罪臺へつれていつたものをなあ。

シヤイ ロック 入る。

公爵 どうか、邸までお出下すつて、御會食が願ひたい。

ボオシ ありがたうございますが、どうか御容赦を願ひたうございます。わたくしは今晚の内にバデュアへ参らんければなりませんので、直さま出立いたすのが順當と存じます。

公爵 御都合がわるいとは残念なことで。……アントニオ、よくお禮をするがいゝ、お前は全く此方のお庇で助かつたのぢや。

公爵及び其従者入る。

バツサ

謹んでお禮を申し上げます、わたくし並びにわたくしの信友は、今日、閣下の賢明な御裁判によつて、一命にかゝりまする科料をまぬがれました。

つきましては、猶人に遺しまする筈の此三千兩を、喜んで閣下に献上いたしましたして、聊か御厚志に報ひまする當座の章といたしまして……

アント

尙此後幾久しく、今日の御恩を忘れませんで、愛敬の誠意を致したいと存じをります。

ボオシ

自分で満足してをる者は、既に報酬を得てをるのです。 わたしは貴下を救ひ得たので自ら満足してをるのですから、すなはち最早已に報酬を得てをるのです。 わたしは曾てそれ以上の報酬を望んだことはありません。

どうか又お目にかゝる時分にお見知りおきを願ひます。 御機嫌よう。 これでお別れします。

バツサ

失禮ながら、是非とも押返してお願ひ申さねばなりません。 何かわたくし共からお持歸りを願ひたい、記念として、謝禮と申す譯ではなく。 どう

か二つの事を御許容願ひたい、御辭退をなさらないことゝ失禮をお赦し下さることを。

ボオシ

それほどにおつしやるから仰に従ひます。(アントニオに) 貴下の手袋をいただきたい、記念として身に附ませう。(バツサニオに) それから、貴下の御好意に對して、その指輪をいただきませう。 手を引込めちや不可ません。 他に何もいただきはしない。 御厚誼のお有りなさる以上、それを否とはおつしやるまい。

バツサ

此指輪は、どうも困りましたねえ、こりや粗末いのです！ 如是物をさしあげては、わたくしの耻辱になります。

ボオシ

その他は、何もいただきたくありません。 非常にそれが欲しくなつて

來ました。

パッサ

これには、價值以外の、據ろない仔細があります。ゼニスちうで最高價の指輪を献ずることに致しませう、廣告して捜し出して献じます。これはつまりは、何卒御免を蒙ります。

ボオシ

貴下は、御吹聴だけは、中々大氣なお方です。最初わたくしに強乞れとお教へになつたのですよ、さうしておいて、強乞る奴は、畢竟どういふ待遇を受けるかといふことを改めてお教へになつたのですね。

パッサ

實はその、此指輪は、妻がわたくしにくれましたのです。さうして、これをわたくしに穿めさせました時に、妻が、決して手離してはならん、遣つてはならん、失してもならんと、わたくしに誓言をさせたのです。

ボオシ

さういふ口實は、人に物を遣るまいと思ふ時に、多くの人の役に立ちます。若し貴下の細君が狂女でなくつて、其指輪ぐらゐは頂戴してもよい功勞が

わたくしに在るといふことを御承知なされれば、貴下がそれをわたくしに下すつたつて、いつまでも敵意をお抱きなさるともあるまいと思ひます。いや、御機嫌よう！

ボオシヤとネリッサと入る。

アント

パッサニオさん、指輪をあの方にお遣しなさい。奥さんの命令でもあらうけれど、あの人の功勞とわたしの友誼とを以てそれに易へて下さい。

パッサ

さ、グレシヤノ、君走つていつて、追付いて、あの仁に此指輪を渡して、成らうことならアントニオの邸まで連れて来て下さい。早く！急いで。……

グレシヤノ入る。

さ、貴下とわたしは、すぐにお宅へ往くことにしよう。さうして明朝は、朝早くベルモントの方へ飛出すことにしませう。さ、アントニオ。

二人ともに入る。

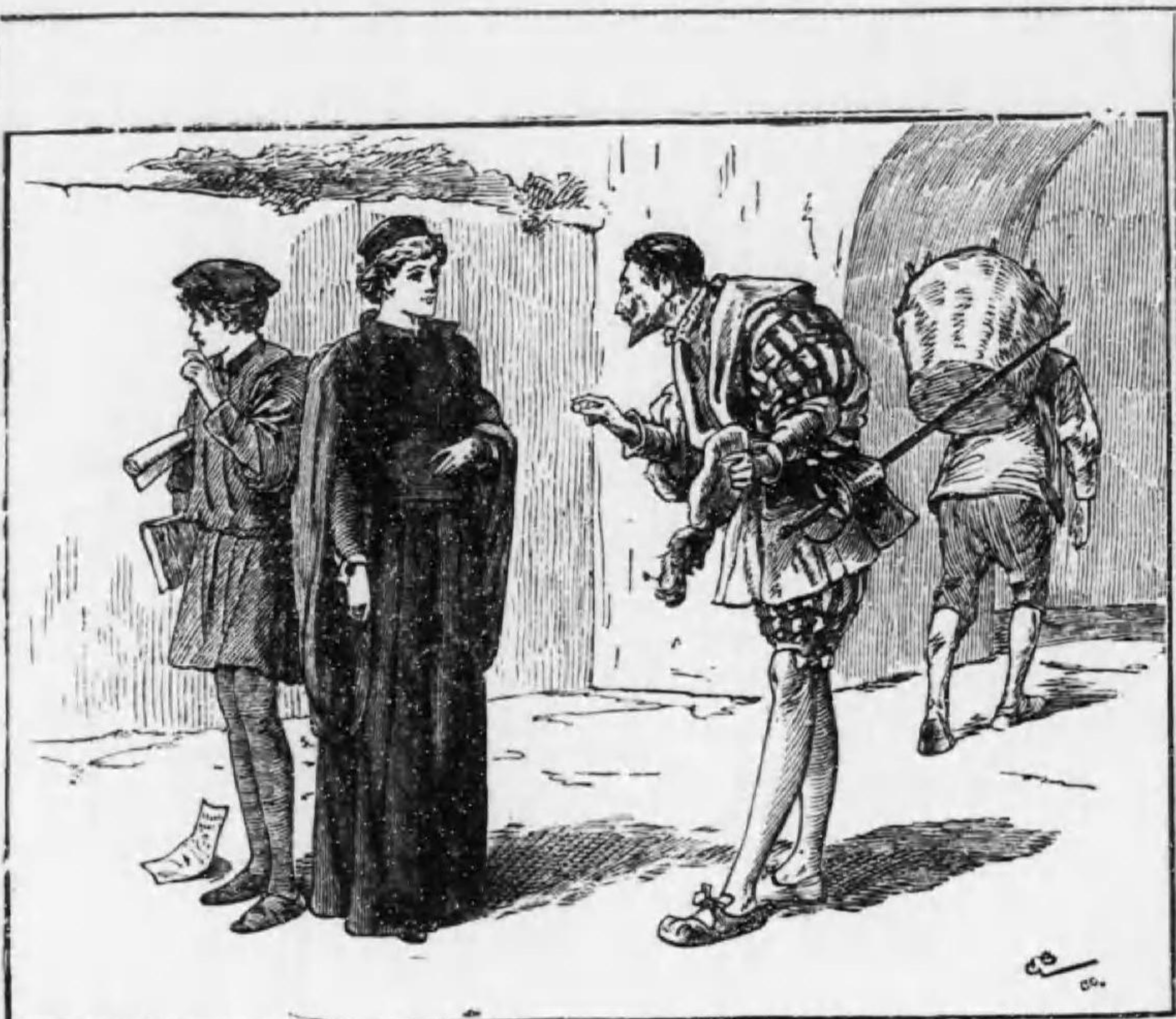
第二場 同處。街上。

ホオシ 猶人の宅を尋ねあて、此證書を手渡して、記名をさせとくれ。今夜の中に出立して、夫たちよりは一日前に歸りませう。此證書を見たらロレンゾが嘸喜ぶだらう。

グレシヤノ出る。

グレシ 若先生、あゝやつと追付ました。主人バツサニオが考へ直して此指輪を献ずることにいたしました、相願はくは、御臨席を乞ひまして、粗酒を献じたいと申しをります。

ホオシ それは出来ませんが、指輪は最も喜んでいたゞきます。どうかさうおつ



しやつて下さい。更にお願ひは、どうか此青年にシャイロックの宅を教へてやつて下さい。

グレシ 承知しました。

ネリッサ (ホオシヤに) 貴下、一寸お話申したい。(ホオシヤだけに) わたくしの夫の指輪も、取れるかどうか試つて見ませう、あれも一生手離しちやいけないと誓言させておいたのです。(ネリッサだけに) きつと取れる

陣屋の方へ向いて、深い切ない溜息を洩したのは。

ちやうど如是晩でしたらう、處女のシスビが、怖々露を踏みしだいて、約束の場所へは往つたものゝ、戀人の來ないうちに獅子の影が見えたので、驚いて逃げてしまつたのは。

ロレン

ちやうど如是晩だつたらう女王のダイドーが、柳の枝を手に持つて、荒海の磯際にたゝすんで、もう一度戀人をガーセージへ招き返さうとしたのは。



ちやうど如是晩でしたらう、魔法使ひのメデイヤ姫が、老翁のイソン王を若

ジェシ

返らせる爲に、靈藥の草を集めたのは。

ロレン

ちやうど如是晩だつたね、猶人の娘のジェシカが、金持の親父をだまくらかして、ろくでなしの情夫と一しよにエニスを拔出して、ベルモントまで驅落したのは。

ジェシ

ちやうど如是晩でしたね、ロレンゾといふ若い人が、可愛い、好いたのと、口から出放題の誓言をして、さんざつばら彼娘をだましたのは。

ロレン

ちやうど如是晩だつたね、可愛いジェシカが、小ちやい、婢左衛門のやうに、亭主の悪口をするのを、亭主がだまつておとなしく聽いてゐたのは。

ジェシ

如是晩盡しをするのなら、夜通しかゝつたつて負けやし無いのだけれど、ね、誰れか來たわ。……そら、足音がするでせう？

ステファノ出る。

ロレン

何人です？ 寂とした此夜中に、そんなに大急ぎでやつて來るのは？

ステフ わたくし。

ロレン わたくし！ わたくしとは？ どなたです？

ステフ ステフアノ下す。お姫さまは夜明前にお著になります。只今、途々の十字架を一々に御参拜遊ばして、おめでたい御結婚の將來を祈願してゐらつしやいます。

ロレン だれが御一所です？

ステフ お上人さんとおの腰元さんばかりでございます。殿さまは、まだ御歸邸になりませんのですか？

ロレン まだです。まだ何のお便りもありません。……とにかく奥へ往かうよ、ジエシカ、さうして相當の儀式を整へてお姫さんのお歸りを迎へよう。

ランスロット 出る。

ランス ソーラ、ソーラー！ ウォーハー、ホー！ ソーラ、ソーラー！

ロレン だれだ呼ぶのは？

ランス ソーラー！ 若しや此邊に、ロレンゾの旦那とロレンゾの細君は居ませんでしたかね！ ソーラ、ソーラー！

ロレン おい／＼呼號るのは止しな。こゝにゐるよ。

ランス ソーラー！ 何處だね？ え、何處だね？

ロレン こゝだよ。

ランス どうか彼仁に知らせてやつて下さい、御主人から飛脚が來たつてね。彼の喇叭は吉左右で一ぱいであ。で、御主人には、いよく夜明前に、お著到と御座い。

ランスロット 入る。

ロレン ちや、入らうよ、さうして彼方でお歸りを待たう。……が、それにも及ばないね。入る必要もないか。……ステフアノさん、どうか貴下奥へ知らせ

下さい、お姫さまは最早直にお著だつて。それから樂人たちを戶外へ出張させて下さい。……

ステファノ 入る。

どうだい此芝堤にはんりの映る月の影の美しいこと！ こゝに二人で腰を掛けて、そよ〜と聞えて來る樂の音を聞かうよ。うつくしい樂の音と此間とした夜の静かさは善い鹽梅に調和するよ。ジェシカ、お掛けよ、御覽、天の床は、まるで燦然した金の小皿を一ぱいに敷並べたやうだ。あのうちの一番小さい星だつても、あゝして空を廻轉する途々、天使のやうな美しい聲をして歌を唱ふんだとき、嬰兒のやうな目附をした天童たちが天樂を奏するのに合せて。人間の靈魂だつて、やつぱり然ういふ音樂を奏するんださうだが、——此滅び行く穢い泥の衣服に包まれてゐるから、我々の耳には聞えないのだ。……

音樂者 共出る。

さあ〜！ 眠てゐるお月さんを讚美歌で以て起して下さい。それから早速お歸りなさるやうに、ふるひつくやうな面白い曲を奏して、お姫さまのお耳をえぐつて下さい。

ジェシ

ロレン

わたし些とも面白かないわ、好い音樂を聞いたつても。

それはお前さんがあんまり眞剣になるからさ。何故つて、あのあばれ盛りの家畜や、まだ馴らされてゐない若駒なんかでも、狂氣のやうに跳廻つて、吼えたり高嘶したりするのが彼奴らの血氣壯んな證據でもあり持前でもあるのだが、あれらでも、若し偶然と喇叭の聲を聞いたり又は何か音樂の調を聞いたりすると、いつの間にか立止つて、其あらく〜しい目の色までも溫柔やかな目付になる、それは全く音樂の魔力なんだ、それだから詩人が、昔オルフェウスといふ樂の名人があつて、音樂の力で、木をも石をも

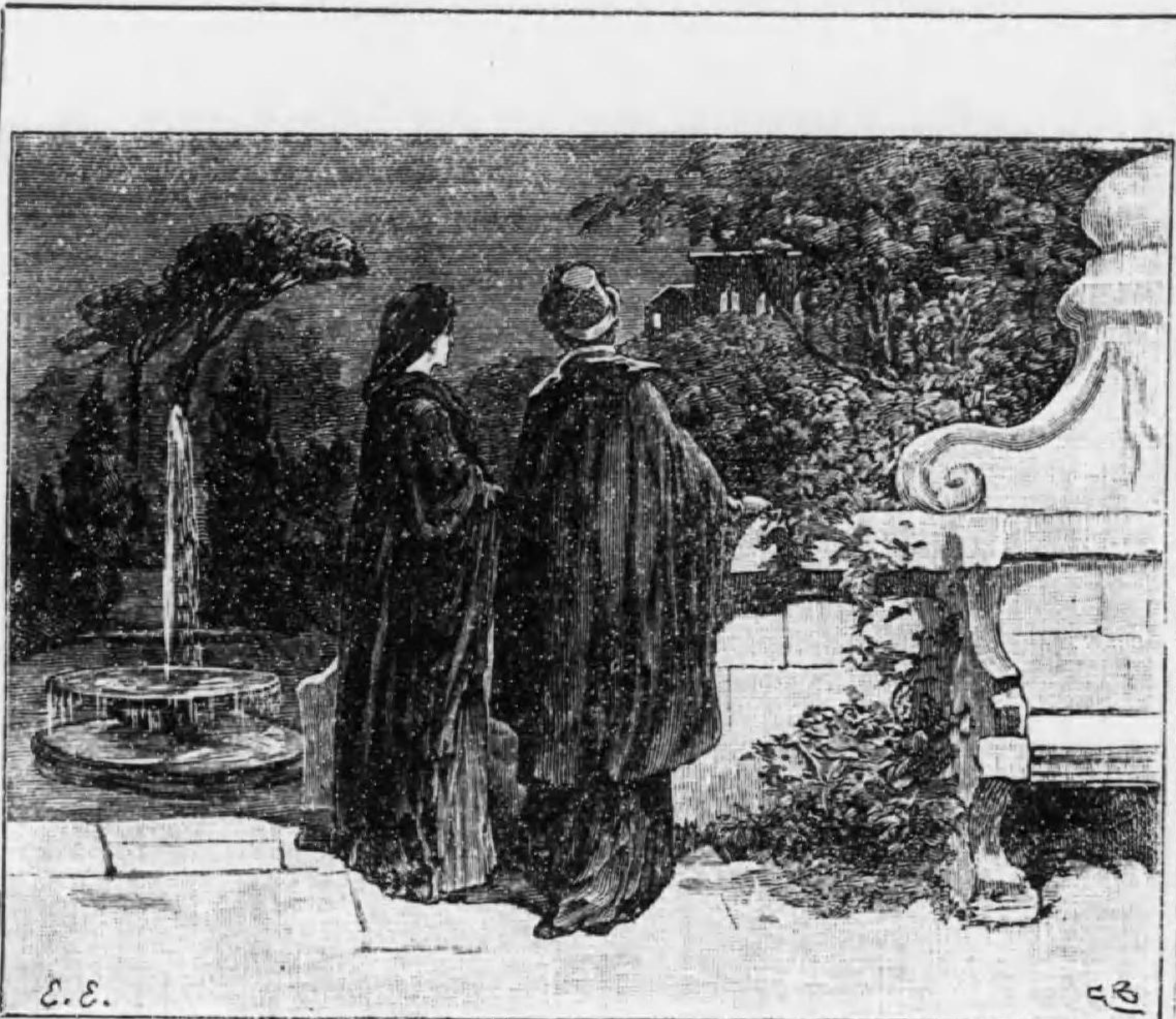
流をも動したなぞと言ひ傳へたのさ。だつてお前、どんな冷淡な、頑固な、兇暴な者だつても、音楽を聞けば、一時は性質が一變せざるを得ないからね。少しも音楽の素養がなく、美しい調を聞いたつて、少しも感動しないやうな者は、きつと謀叛したり、悪計をしたり、強盗をしたりするよ。そんな奴の感情は、夜のやうに遲鈍で、冥府のやうに暗黒なんだ。そんな男は信せられないよ。……あの音楽をお聴き。

ボオシヤとネリツサと出る。

ボオシ あの燈光は客間から射してゐるのだね。あんな小さい燭火の光りでさへも、如此遠くまで及ぶんだよ。ちやうど如是な風に、善い行爲が澆季の世を照すのです。

ネリツサ 月が照り渡つてゐましたうちは、あの燭光は見えませんでしたよ。

ボオシ ちやうどそれと同じに、大きな光榮は小さい光榮を消してしまひます。



第五幕 第一場

王がお出座にならないうちは代理の宰相が光り輝いて見えるけれど、お出座になると、それが、ちやうど内地の小流が海へ落込んでしまふやうに消えてしまふ。……おや！ 音楽が聞える。

ネリツサ あれはお邸の音楽でございませよ。

ボオシ 何事も周囲との關係だねえ。晝聞くよりも何となく趣味が深いやうに思ふわ。

ネリッサ 静かな故でございますね。

ボオシ 鳥の聲だつても雲雀の聲と同じに聞えませう、何方にも附屬物が無かつたなら。ナイチンゲールだつても、若し鶯鳥が囀しく鳴立てゝゐる晝日中に囀つたなら、たかゞ鯨鯨ぐらゐにしか聞かれないでせう。大抵のものは、機に合へばこそ程よく折合つて、正當な名譽をも得れば、眞實の長所をも現すのです。……しづかに！月の女神は、今ちやうど戀人のエンデミオンと一しよに眠つてゐなされるのよ、起さないほうがよい。

音楽止む。

ロレン あの聲は、ボオシヤさまだよ、きつと。

ボオシ よく知つてゐるわね、盲人が悪い聲なので郭公の聲を覚えてゐるやうに。
ロレン 奥さま、ようお歸りになりました。

ボオシ わたしたちは夫がたの御無事を祈願してゐたのです、ですから其靈験で以

て、多分御安泰であらうと思ひます。もう歸られましたか？

ロレン まだお歸りにはなりません、其お知らせのお使ひは參つてをります。

ボオシ ネリッサ、奥へ往つて衆人に申しつけとくれ、わたしたちが外出したことは様子にも見せないやうにね。……ロレンゾ、お前さんもね。ジェシカ、お前さんもね。

タツケットの音。

ロレン 殿さまのお著です。喇叭が聞えます。奥さま、わたくしどもはお饒舌で

ボオシ はございませんから、御心配なさいませぬ。
何だか、晝が罹病つてゝもゐるやうな夜景色だねえ。しかし晝にしては少し蒼ざめ過ぎてゐるわ。言は、いま、太陽が隠れてゐる時の晝だね。

パッサニオ、アントニオ、グレンシヤノ及び其従者出る。

パッサ 太陽は隠れてゐても、貴下さへ出歩いてゐらつしやれば、いつでも晝のや

うに明るい。

ボオシ あかると被仰つて下されば、嬉しいけれど、若しかるい、軽々しいと被仰られたら、如何しませう？ 軽々しい妻は、兎角夫に不快な思ひをさせます。併し何事も神の御差配です。ようお歸り遊ばしました。

バツサ ありがたう。わたしの信友を歓迎して下さい。これが彼人です、これがアントニオです、わたしの大恩人の。

ボオシ 此方の御恩は、決してお忘れになつてはなりません、貴下の爲に大變にお盡しになつたと承はりましたもの。

アント それ是最早、とうに済んでしまつたことです。

ボオシ 貴下、まあ善く入らしつて下さいました。迎も言葉では申し盡されませんから、御挨拶は省きます。

グレシ (ネリッサに)あの月が證人だ、貴下の言ふことは無理だ。全く裁判官の書記

に遣つたんですよ。

ボオシ おや、もう口論なの！ どうしたの？

グレシ つまらない金の指輪の事です、先だつて彼女がわたくしにくれた、刃物屋が小刀へ彫附けるやうな見棄てちや厭よつて文句が彫つてあつた指輪なんです。

ネリッサ 文句や値段の事をいふ必要はありません。貴下は、わたくしが彼品をあげました時に、死ぬ時までも身に附けてゐて、死ねば墓へ一しよに埋めさせるつて、誓言をなさいました。わたくしは兎も角も、あゝいふ激しい誓言をなすつたのに對して、斟酌して、大切になさなければならなかつた筈です。裁判官の書記生に遣つたつて！ いゝえ、神さまがわたくしの裁判官です、其書記生とやらは、きつと、鬚なんか生えてやしますまい。そりやその、生えちやゐなかつたけれど、いづれその丁年になりや生える

よ。

ネリッサ え、生えませうとも、女が丁年になつて男に化るものならばね。
グレシ い、え、全くその、全く、若い男に遣つたんだよ。小僧つ子なんだ、小さい、

丈の低い少年なんだ、お前より高かない位の。裁判官の書記生で以てね、よく饒舌る奴で、報酬に是非彼品をくれろと言つたんだ。わたしはどうしてもその否といへなかつたんだ。

グレシ そりや貴下の方がわるい。遠慮なく申さねばなりません、ネリッサから初めてあげたものを、さう軽々しくお棄てなさるのは、貴下がわるい。誓言をして、決して變らないといふ證據に、信實の錠として、貴下の肉體へお穿めなされたのぢやありませんか？ わたしも夫へ一つの指輪をあげて、決して手離さないといふ誓言をして貰ひましたの。現にあそこに居られます。わたしは誓言しても宜しい、夫は、よし世界中の財と取換へても、

決して彼品を手離すやうなことはせられますまい。ねえ、グレシヤノ、貴下は酷い、ネリッサが悔しがるのは道理です。わたしが若しそんな目にあつたら、きつと氣が狂ふでせう。

（傍白）こりや寧ろ左の手を切つてしまつて、指輪を奪られまいとして、如是になつたと言張つたはうがい。

ボオシ バッサニオさまも、御自分の指輪をお遣りなすつたんです、裁判官がくれると強請つたんで。又實に遣らざるを得なかつたのです。そこで其書記生の小僧が、奴は書記として骨を折つたのですから、わたしのを強請つたのです。主従とも、指輪以外のものは取らないのです。

ボオシ 貴下、どの指輪をお遣りになりました？ よもやわたくしがあげましたのではありますまい。

ボッサ 失策した上に虚言までも吐くことが出来れば、彼品は遣りはしませんと言

ボオシ

ひたいのですが、わたしの指は、御覽の通りです、指輪は無いのです。ちやうど其通りに、貴下の輕薄な心には眞實といふものは無いのでせう。あの指輪を見るまでは、決して同じ聞では休みません。

パッサ

ボオシヤさん、若し貴下が誰れにあの指輪を遣つたか、だれの爲に遣つたか、何の爲に遣つたかを御承知になり、どの位わたしが煩悶して、指輪の外は何物をも取らないと言はれるに及んで、據ろなく彼品を手離したといふことを了解して下すつたなら、そんなに御立腹なさらんでも可いだらうと思ふ。

ボオシ

若し貴下が、あの指輪の値打を御存じであり、指輪をあげました當人の人格を半分だけでも御承知になり、又貴下の御名譽上、あの指輪は是非保存遊ばさねばならないといふことをお考へになりましたなら、貴下はあの指輪を手離しておしまひ遊ばすことは、どうしても出来なかつたでありませ

パッサ

う。どんな理のわからない男だつて、貴下が熱心に、これは遣られない、とお拒みになつたら、結婚の記念品であるものを、それでもくれいと押強に言張る筈は無からうぢやありませんか？ 成程ネリッサの申す通りでせう。必定どこかの婦人にお遣しになつたに相違ありません。

いゝえ、決して、わたしの名譽をかけて、婦人なんぞに遣したのではない。民事の裁判官に遣つたのです、三千兩を贈らうとしたところが、如何しても受けないで、あの指輪をくれといつたのです。それを一たんは拒絶して、現在信友の命を救つてくれた恩人が、不快な顔をして歸つて行くのを打棄つておいて見たのですけれど、何分にも其儘にしてはおかれなからうぢやありませんか？ そこで止むを得ず、指輪を持たせて其後を追つかけさせたのです。義理を思ひ、恥を思ふと、恩知らずといふ汚名で以て、自分の面に泥を塗るに忍びなかつたのです。姫さん、恕して下さい。輝く

ポオシ

月や星も照覽あれ、若し貴下があの場合にわたなら、貴下みづから、大恩ある博士へあの指輪を遣つてくれと、きつとおつしやつたに相違ない。

其博士とやらを、此邸の附近へ來させないやうに遊ばせ。何故なれば、其人がわたくしの大事の指輪を、貴下がわたくしの爲に必ず保存するとおつしやつた其指輪を持つてます以上は、わたくしとても貴下同様に、かまはなくなるかも知れません。きれいといへば、何でも遣すかも知れません。はい、此肉體も、臥床をも、貸すまいものでもありません。はい、其人と知合になりませわ。ですから一晩も邸をおあけなさいますな。百眼怪のやうに見張つてゐらつしやい。さうでなく、手放してお置き遊ばすと、今はまだ汚れてゐない女の操を誓にかけて、どんな悪い事をするか知れませんよ。

ネリッサ (グレシヤノに) わたしとてもね。ですから御用心なさいまし。わたしの儘

グレシ

にさせておくと、其書記生を引入れるかも知れませんよ。

引入れて見るがい、おれが忽ち取捉へて、商賣道具のペン軸を壓折つてくれる。



アント

此ういふ不慮な事になりましたのは、不幸にも、悉皆わたくしが原因なのです。

ポオシ

お氣づかひ遊ばすな。決して貴下を悪く思ふやうなことはございませんから。

バツサ

不都合は萬々止むを得なかつたことだと勘辨して下さい。此多數の友人の前でわたしは誓言します、貴下の其美しい眼を誓にかけて……

ポオシ まあ、あれだものを！ わたくしの眼にかけてと被仰れば、右の眼と左の眼と、両方にかけるのでせう。すなはち、それは二心の誓言です、嘸信用が出来ませうよ。

バッサ まあさ、さう言はないで、堪忍して下さいよ。もう決して、二度とは約束を破らないから。

アント わたくしは此身體を、一たんバッサニオさんの爲に抵當に入れましたので、若し指輪を持つて行つた彼御仁のお庇がなかつたなら、最早とうに亡つてゐる一命です。それゆゑ、このたびは、此靈魂を抵當にいたしました、決してバッサニオさんに、二度と約束を破らせないといふ保証人になりますから、どうか曲げて御勘辨を願ひます。

ポオシ では貴下を保証人にいたします。……之を夫に渡して、前のよりも大事にするやうにおつしやつて下さい。

アント さ、バッサニオさん。決して失しないといふ御誓言をなさい。

バッサ おや〜！ こりや博士に遣つた彼指輪だ！

ポオシ あの人に貰ひましたの。バッサニオさん、御免なさい。其指輪を持つて來ましたので、ゆうべ博士を泊めましたの。

ネリッサ グレシヤノさん、わたしも御免なさいね、あの丈の低い書記生の小僧さんも、此指輪を持つて來ましたからね、内しよで泊めてやりましたの。

グレシ こりや宛然、ぬかりも何もしないのに、夏の最中に、道普請といふ格だ！ え、亭主の方は曾そまだ浮氣らしいことをしたこともないのに、嫌連は、もう已に如是不埒を働くのかい？

ポオシ さう口ぎたなくおつしやるなよ。まあ皆さんが吃驚してさ。……こゝに書狀があります。ゆつくりお読みなさい。それはパデユアから、ペラリオから來たのです。それをお読みになると、博士はポオシヤで、書記生は

ネリッサといふことが解ります。こゝにゐるロレンソが證人です、わたしらは貴下と一しよに出立して、つい今しがた歸つたのです。まだ家へは入らなかつたのよ。……アントニオさん、ようお出なさいました、わたくしは貴下の思ひもかけてゐらつしやらない吉い消息を貯へてゐます。すぐに此書面を御開封なさい。其中に、貴下の商船の三艘が貨物を豊に積載せたまゝで、思ひがけなく港入をしたといふことが書いてありませう。どういふ不思議な手續で、其書面がわたくしの手に入つたかは、お解りになりますまい。

アント 口がきかれませんか。

バッサ ぢやあ貴下が博士であつたのを知らなかつたのか？

グレシ 留宅中に泊つたといふ書記生はお前なのかい？

ネリッサ さうよ、けども只泊つたわけなの。男に化けない以上はね。

バッサ 可愛らしい博士さん、貴下なら、留宅中にお泊りなすつたつて關はない。

アント 奥さん、貴下のお庇で命も財産も拾ひました。此書面によると、わたくしの持船は安全に着港したに相違ありません。

ボオシ ちよいと、ロレンゾ！ お前さんにも、わたしの書記生が何やら好い報知を持つて來てゐますよ。

ネリッサ さうです、さ、無報酬でお渡しませう。（證書を渡して）さあ、これは財産家の猶人からの特種財産譲渡證書です。受取人は貴下とジェシカさん、猶人が死ねば、其遺産の全部が貴へるのです。

ロレン ありがたうございます。飢えてゐる者へ靈果が降つて來たやうでございませう。

ボオシ もう大抵明けさうです。貴下がたは恐らくまだよくお解りになりますまい。いま入りますせう。さうして彼方で存分にお尋問下さいまし、何事でも

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙 傑 翁
作 集
(第一編)

ハムレット

(十七版)
三色版口繪
木版密畫多
定價貳圓五
郵稅十一錢

此劇は沙翁の作三十七篇中の最有名なもので、荷も文化國の片端に列してゐる國で、此作を讀まねば、耻だといふ體が、今ほどる行はれ、譯者な、今から十三年前、大苦心で、雅俗折衷の體に譯した。譯に、其頃、味が、ある。本原書は、此原(精巧な木版)及、び美麗な三色版に、なつた。註釋に、大論が、添へられた。其趣、味、が、ある。本原書は、此原(精巧な木版)及、び美麗な三色版に、なつた。註釋に、大論が、添へられた。其趣、味、が、ある。本原書は、此原(精巧な木版)及、び美麗な三色版に、なつた。註釋に、大論が、添へられた。

沙 傑 翁
作 集
(第二編)

ロミオとジュリエット

(十一版)
寫眞版口繪
木版密畫多
定價貳圓五
郵稅十一錢

これは純粹の戀愛悲劇として、沙翁の作中唯一の物で、劇としては勿論、オペラとして、活動寫眞として、絶えず繰返して演ぜられる。十四歳の處女と詩人肌の青年の不幸な情死譚で、原文はハムレットに劣らず讀みにくい。殊に比喩や口合や洒落が夥しいのを、それを雅俗折衷體で譯した點に非常の苦心と特色がある。沙翁の若い時の作だから、いかにも若々とした麗はしさが全編に溢れてゐる。口繪、挿畫の豊富はハムレットと同例である。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 早 稻 田 牛 田

賣 捌 所

東京	東京	東京	東京	東京
神田	日本橋	京橋	京橋	西區
東	北	東	盛	名
京	隆	海	野	古
堂	誠	文	屋	大
堂	館	書	市	阪
堂	堂	館		西
堂	堂	館		區
堂	堂	館		橋
堂	堂	館		橋
堂	堂	館		橋
堂	堂	館		橋

(其 他 各 地 書 肆)

文藝博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第七編)

(第七編)

テムペスト

(六版) 寫真版口繪入
木版密畫多敷入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

この作は沙翁の絶筆だといはれてゐる。それに關しては卷末に譯者が多年の研究考察になつた一大論文を附録として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豊潤な、深刻な而も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味情調を殊にしたロマンチックな喜劇で、妖精が出る、半人半獸の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がない。

沙翁傑作集 (第八編)

(第八編)

マンニタラオパトラ

(六版) 三色版口繪入
木版密畫多敷入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

沙翁の偉大なのは其作の彌、出て彌、傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて、全世界に君たらんが、熾烈なる肉の戀愛を全うせんかといふ大テレンマに達著した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸て漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味も漲る。

發行所 東京 早稲田 牛田 早稲田 大田學出版部

文藝博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第九編)

(第九編)

眞夏の夜に夢

(五版) 三色版口繪入
木版密畫多敷入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない醉乎として醉な作である。先づ「テムペスト」に似たものだといへるが、若い時分の作だけに更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸である。五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的であり、調も夢幻的である。いろくな妖魔が頻に跳梁して恣に人間を翻弄する。人妖が錯綜するが、それが極めて自然である。理窟を全脱して、而も條理が整然としてゐる。艶情があり、滑稽があり、葛藤があり、悲喜がある。忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色。

沙翁傑作集 (第十編)

(第十編)

マクベス

(八版) 三色版口繪入
木版密畫多敷入
定價貳圓五十錢
郵税十二錢

所謂四大悲劇の一つで、沙翁が技術の圓熟期の作である。ドストエフスキーの「罪と罰」の結構を更に雄大に上と稱せられる。わが國へ來た此劇の活動寫眞ばかりでも三種以上あつた。以上、それほ上傑作の略誌を添へた。本編には我國の沙翁研究の沿革を精査したもので、著者、譯者、俳優、劇場まで詳かにしてある。沙翁研究者の必讀を要する。口語體で譯されてあるだけに、所謂四大悲劇中では、これが一等讀み易いであらう。

發行所 東京 早稲田 牛田 早稲田 大田學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第十一編)

水尺報尺

(三版) 寫真版口繪入
木版壹圓五十錢
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

本篇は沙翁が作中で最も皮肉な喜劇と特稱せられるものである。沙翁にも得意時代、失意時代があつたのだが、これは其悲觀時代の一名作で、現實曝露的な所に一味ショウヤブリユーラの近代劇と相通する皮肉味がある。附録として、特に難句解が添へてある。印刷、口繪、挿畫、裝釘、其他一切前例の通り。此事は一々これからは断らないでもあらうが、同例だと信じて下さい。

沙翁傑作集 (第十二編)

夕の夜をさへ

(四版) 三色版口繪入
木版壹圓五十錢
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

ついで先年英國の劇作者、舞臺監督者のパーカーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技巧に成つた作である。今尙舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜劇的氣分との混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を意味しないうちは沙翁を語る權利がない。わが國の黙阿彌などの講釋種のお家騷動物に一寸似た筋立てであるが、其詩としての品位は比べ物にならない。

發行所 東京早稲田 早稲田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第十三編)

リチャード三世

(三版) 寫真版口繪入
木版壹圓五十錢
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁が習作時代の傑作で純粹の正史劇の標本で、わが國でいふ活劇に相當するが、同じやうに正史本位で書いても我國の作者と大詩人とではさういふ遠い惡寛的天才である。よつても分る。主人公は王族でありながら僞徳の骨子をもつて、さういふ三年前に此主人公の道破を破させてゐる。エリザベラ劇勃興當時の代表作で、既譯十二編とは全く異なる異に於て、破

沙翁傑作集 (第十四編)

ヘンリー四世

(再版) 三色版口繪入
木版壹圓五十錢
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁の史劇中の最傑作である。第一、第二と二部に跨つてゐる長篇で、英國の内亂を舞臺面に市井風俗の喜劇とが無縫の天衣のやうに巧妙の極みで、英國の内亂を舞臺面に練梁である。喜劇とが無縫の天衣のやうに巧妙の極みで、英國の内亂を舞臺面に格描寫は古今獨歩である。殊にフオレルスタフと、自然の傑作といふ。其性質の複雑な點に於ては、大落武士の自然性妙でも不純でもある。評者の多くはフオレルスタフに至つては、男性描寫として、優に他のすべも彼れの作中の驚異といふが、フオレルスタフに至つては、男性描寫として、優に他のすべも

發行所 東京早稲田 早稲田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第十六編)

お氣を召すま

三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼れの喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。讀む者も自然と暢氣な晴々した心持になる。牧歌的、特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので、野外劇の脚本にもされる。清淨な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

沙翁傑作集 (第十七編)

おや馬劇ぶ

寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁立身前後に流行つた、フアリス仕立の思ひ切つて豎から式な喜劇の代表作である。其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷姫を難なく征服する段取に至つては更にをかしい。不思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場かは翻案された。本譯には例の挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いのから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

發行所 早稻田大學出版部

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第十八編)

十二夜

寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

既刊「お氣を召すま」の姉妹篇である。學生の同胞の女の方が故あつて男裝してゐるのが間違ひの種になる作意である。此間違ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價値は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌、出て、彌、無盡藏なことが分る。上品な滑稽、高雅な戲謔の上乗である。

沙翁傑作集 (第十九編)

コソオレナス

寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

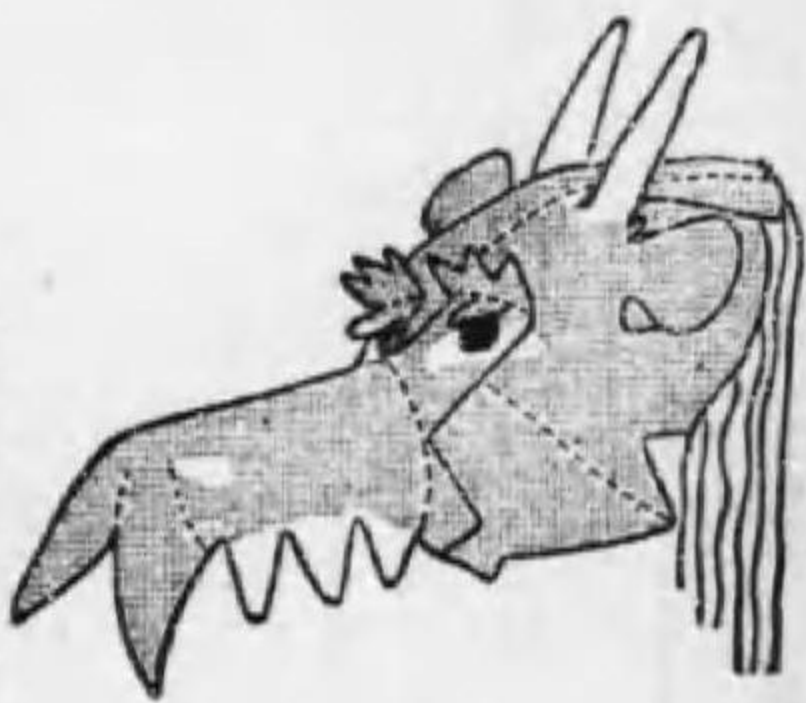
ニイチエの超人道徳の標本のやうな傲岸不敵の一貴族を中心にして、其周圍に渦巻くアリストクラット對プロレタリアの黨争を経緯とした作である。専ら男性趣味と政治的感興で終始し、一の挿話をも一の戀愛情味をも粧點しないで鋭く性格悲劇としての筋を一貫したのが沙翁集中の異例である。特權階級の専横、武斷政治の弊、平和と戦争の得失、所謂多頭の怪物たる群衆の蠢動、選舉期に於ける俗政治家の戸別訪問等、ところどころ現代に對する批判や諷刺が皮肉にも豫寫されてゐるのが面白い。

發行所 早稻田大學出版部

坪内逍遙博士著 小川治平氏畫

家庭用兒童劇

第一集 第二集
各貳圓貳拾錢 各貳圓貳拾錢
郵稅各八錢



美麗を極めた装釘、色刷口繪、見返し繪、其他挿畫多數
此兒童劇は四五歳以上十三四歳までの子供達の爲に
博士が特に家庭用として其高遠な教育的見地から書
かれたものです、容易に子供達自身で演ぜられます、
殊に手輕に手製の出来る澤山の假面を利用して、紅
や白粉を塗らないで演ぜさせる趣向に至つては、古
今内外に前例のない斬新な考案です

附録—畫用紙で自假面の作り方

坪内博士指導
宍戸左行氏案

(大坂中央公會堂、東京有樂座、帝國劇場及び全国各地小學校に於て實演)

東京 牛込 早稲田大學出版部發行

坪内逍遙著

兒童教育と演劇

定價壹圓八拾錢
郵稅八錢

藝術教育は現代の一大 WATCHWORD です、併し其理論と其實
際とが兎角離れぬになるので存外其効果が擧がらない、本書は其
弊を救ふために書かれた第一書です、主として婦人のために説かれ
たのだが、苟も家庭乃至初等教育に志ある人々の必讀書です、其要
目は(一)現世紀の三特徴(二)現代に於ける女性の任務(三)遊戯の藝
術化(四)兒童劇の進化(五)兒童劇の種類及び使命(六)兒童劇の效用
(七)兒童劇に對する種々の杞憂(八)兒童劇の扱ひ方(九)結論

東京 牛込 早稲田大學出版部

—(成完卷六部全)—

イブセン傑作集

四六判布製函入
每册口繪數葉入
全各壹圓五拾錢
郵稅各十錢

1 島村抱月譯	人形の家	4 坪内士行譯	小さいアイヨルフ
2 島村抱月譯	海の夫人	5 坪内士行譯	野
3 坪内士行譯 島村民藏譯	ロスメルスホルム	6 坪内士行譯	ヘツダ・カブラー

北歐ノルエーの僻地に生れ社會劇の大作を出して歐米の思想界を震撼したのはイブセンである。婦人の自覺、婦人の解放、婦人の獨立を題材とした「人形の家」が本譯書に依て屢々我が劇壇に演ぜられて女大學主義の守舊家を戦慄させた事は誰も知つてゐる。彼の作は何れも傑作ならぬは無いが茲に譯出した六作は傑作中の傑作である。而して譯者は我劇壇文壇に隠れもない島村抱月、坪内士行の兩氏及び島村民藏氏であるから其譯筆の如何は言ふに及ばぬ。

發行所

東京牛込
早稻田

早稻田大學出版部

終

